

今だけ金だけ自分だけ

「ぼつんて…」という場所は別にして、高度に標準化と少量産とする物品・サービスは、日本全国、ほぼ同水準で享受することが出来る。これは、日本ならではの大変素晴らしい一面である。その一面に関しては、私も大変有難く思っている。

しかし、物事は多面的であって、ある一面だけで評価できない。また、物事は、「優劣」「善悪」等の二元論で評価するものではない。

高度に標準化と少量産とする物品・サービスには、諦めなければならぬ面がある。その一例は「個性」である。高度な標準化と少量産を望む消費者にとっては、物品・サービスは均一でなければならず、個性は不要である。もう一つの例は「国民所得」である。高度な標準化と少量産を望む消費者にとっては、低価格である必要があり、熾烈な価格競争となる。価格競争で割を食うのは原材料の「仕入先」である。仕入先も十分利益を上げてこそその商売であるはずだが、なかなかそうはならない。しかし、こうしたデフレの商売をやるだけでは、実は、国民所得が下がる一方である事にも関心を持たねばならない。

今だけ、金だけ、自分だけ良ければ、それで良いという部分を、少なくしたいものである。

江幡 導